



## 巻頭言

## 整形外科 教授 /

しらはた としゆき  
白旗 敏之



若葉がまぶしく、爽やかな風が心地よい季節となりました。新年度が始まり1か月が経過し、皆様におかれましては新しい生活にも徐々に慣れてこられた頃かと存じます。

整形外科は、頸部から足先に至るまでの骨・関節・筋肉・神経の疾患を扱い、小児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とする診療科です。昭和医科大学江東豊洲病院整形外科では、総勢16名（うち整形外科専門医13名）のスタッフで、外来診療・手術・救急対応にあっております。昨年度の総手術件数は1,400件を超え、開院以来最多を記録いたしました。これもひとえに地域の先生方からのご紹介とご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

当科では、私が専門とする脊椎外科をはじめ、手肘および肩関節を専門とする上肢班、スポーツ外傷や膝関節疾患を扱う膝関節班、股関節疾患および小児疾患を担当する股関節班の3つの診療班に分かれて診療を行っております。各班において経験豊富な整形外科専門医が、それぞれの疾患に応じて患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できるよう努めております。

また、整形外科は変性疾患のみならず、外傷診療を基盤とする診療科でもあります。年間手術件数の約4分の1を占める四肢外傷や小児外傷（捻挫、骨折、開放創など）に対しても、専門を問わずスタッフ一同が連携し対応しております。（その時の手術室の稼働状況にもよりますが、緊急の四肢開放骨折や切断指、脊椎骨折・脊髄損傷、脊髄・馬尾神経麻痺にも対応は可能であります。）

これらの診療を安全に遂行するためには、多職種の協力が不可欠です。麻酔科をはじめとする各診療科との連携に加え、入院中は看護師、理学療法士・作業療法士、薬剤師がチームとして治療に携わり、安心して患者さんに入院生活を送って頂けるように努めております。

当科では横山病院長の掲げる「断らない病院」の理念のもと、地域の先生方が安心して診療に専念できる環境づくり、そして地域の皆様が安心して生活できる医療の提供に努めております。今後もスタッフ一同、より一層研鑽を積み、日々の診療に尽力してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 第145号のトピックス

- 巻頭言（整形外科）
- 公開講座連携記事（整形外科）
- 第22回公開講座開催のお知らせ
- 防災訓練を行いました
- ご意見・ご要望
- 編集後記

中年以降の肩の症状に対するアプローチ

整形外科／磯崎 雄一

肩が痛い、動きが悪い患者さんは多くいらっしゃいます。しかし、医療機関を受診してもレントゲンは異常なし、と言われるケースがほとんどです。診断も年齢が40歳代なら四十肩、50歳代なら五十肩などと言われることが多いです。それ以外にも三十代なら早めの四十肩、60歳代以降であれば遅めの五十肩とも言われます。しかし、四十肩や五十肩は病態を考慮した病名ではありません。

肩の病名を列挙すると腱板断裂、関節拘縮、関節唇損傷、肩峰下インピンジメント、変形性肩関節症、上腕二頭筋長頭腱炎などがあります。上肢班では肩甲骨機能障害、という概念もあります。診察と画像検査で診断します。レントゲンは普通に撮影するだけでなく、動態撮影(様々な肢位で撮影する)も用います。また、軟部組織の評価にはMRIを用います。診断が困難な場合、疼痛に関連していると思われる部位に局所麻酔を打つなどして原因を探すこともあります。

肩の症状の原因としては解剖学的な原因と機能的な原因があります。解剖学的な原因は肩関節を構成する要素が実際に壊れている状況です。最終的に手術が必要なことがありますが、人間は適応する動物のため、他の部位で代償できることがあります。機能的な原因は筋肉が落ちたり、関節が硬くなったりすることで生じる症状です。代償運動の獲得と機能的な原因に対する治療は運動療法すなわちリハビリが有効です。

肩関節は全身運動のため、肩だけリハビリしても上手くいかないケースがほとんどです。私自身は運動連動学という考えに基づいた運動療法を大切にしております。一見関係のない部位に対するアプローチを行います。それにより肩の症状が改善することが多々あります。また、リハビリに注射を組み合わせることにより、リハビリの効果が上がることが期待されます。リハビリや注射が無効であれば最終的には手術に至るケースもありますが、リハビリや注射で対応できる範囲が広いのも肩の特徴と考えます。リハビリは自主トレ最重要です。理学療法士の指導をしっかりとこなして下さい。



## 第22回公開講座開催のお知らせ

6月7日（日）に第22回昭和医科大学江東豊洲病院公開講座を開催いたします。  
皆様のお申し込みをお待ちしております。（受講100名まで）。

開催日時：令和8年6月7日（日）14：00～16：30 開場13：45から

開催場所：昭和医科大学江東豊洲病院 9階講堂

### 『暮らしと健康・見逃さない！痛みから見る体の不調』

演題：「頭痛について -その痛み、放っておいても大丈夫?-」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 脳神経外科 教授 杉山 達也（すぎやま たつや）

演題：「肩が痛い・動きが悪い -頻度の高い疾患について-」

演者：昭和医科大学江東豊洲病院 整形外科 講師 磯崎 雄一（いそざき ゆういち）

申込：受講のお申込みは、5月15日（金）10時から

☎03-6204-6000（代表） 昭和医科大学江東豊洲病院管理課

費用：無料

主催：昭和医科大学 後援：江東区



## 防災訓練を行いました

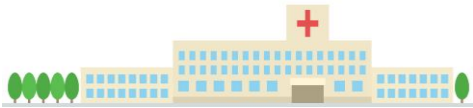


4月3日（金）に新入職員を対象とした防災訓練を実施しました。  
今回の訓練には、臨床研修医、薬剤師、看護師など計65名の新入職員が参加し、  
屋上から地下階まで、電気・医療ガス・免震構造といった院内設備の見学を行ったほか、  
各階に設置されている消火栓や消火器の使用を確認しました。  
また、屋外では実際に消火栓を用いた放水体験も行いました。

参加した職員の多くが、普段目にする事のない設備や消火器具に触れるのは初めてであり、  
病院の一員として防災意識を高める貴重な機会となりました。

当院は平成26年より「東京都災害拠点病院」の指定を受けており、  
災害時には地域の拠点病院として機能することが求められています。  
今後も地域の拠点病院としての役割を果たすべく、継続的な訓練を通じて  
職員の防災意識の向上に努めてまいります。



## ご意見・ご要望

<p>感謝</p> <p>看護師さんたちは皆優しく笑顔でとても感じが良かったです。担当の先生方も丁寧でとても分かりやすく説明していただきました。とても良い病院だと思いました。これからも患者さんのために頑張ってください。</p>	<p>回答</p> <p>この度はお褒めの言葉をいただきありがとうございました。今後も患者さんにとって安心できる療養環境を提供できるよう努力してまいります。貴重なご意見をいただきましたことを心より感謝いたします。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：7B病棟</p> 
<p>ご意見</p> <p>面会や見舞いの受付場所が分かりやすくなるよう、案内看板を設置してほしい。</p> 	<p>回答</p> <p>ご不便をおかけして、申し訳ございません。11番受付（面会受付）の場所について、正面玄関を入ってすぐの1階エントランスにて、皆さんの目に留まりやすい場所に掲示いたしました。ご意見ありがとうございました。</p>  <p style="text-align: right;">回答部署：管理課</p>

編

集

後

記

桜吹雪に送り出された新年度からひと月。街路樹の緑が目には鮮やかな季節となりました。新生活をスタートさせた方々も、ようやく新しい環境のペースを掴み始めてきた頃でしょうか。

当院にも多くの新しい仲間が加わり、瑞々しい活気に満ち溢れています。しかし、変化というものは心躍る一方で、無意識のうちに心身へ負担をかけるものでもあります。いわゆる「五月病」という言葉があるように、知らず知らずのうちに溜まった緊張が疲れとして表れやすい時期です。

そんな時こそ、ほんの少し立ち止まり、自分の体と心の声に耳を傾けてみてください。十分な睡眠やバランスの良い食事、適度な運動といった日々の基本が、健やかな毎日を支えてくれます。体調の変化や気になる症状があれば、どうぞ無理をなさらずお気軽にご相談ください。皆さまが安心して新しい季節を過ごせるよう、私たちも日々の診療に努めてまいります。



泌尿器科 わたなべ 渡邊 ひろひこ 裕彦



昭和医科大学  
SHOWA Medical University

昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院  
ホームページ